

## 山口国際文化化学研究会へのおさそい

教員世話人 稲田秀雄

院生世話人 王 星慧 小野飛鳥 岡村理恵 張超超

**日 時** 平成26年6月25日（水曜日）16時10分より

**場 所** 国際文化学部棟 C-12教室

**主 催** 大学院国際文化学研究科

**発表者** 北林健二（山口県史編さん室明治維新部会専門研究員、国際文化学研究科修了生）

### タイトル「A3用紙1枚から始まる地域史編集メソッド —— 地域資源を高校や大学教育にどう生かすか ——」

**要 旨** 発表者は2013年に修士論文「高等学校における地域素材を活用した新しい日本史授業モデルに関する研究」を提出した。その際、課題として積み残したものの1つに、学生が地域の資料館等の〈知の資源〉にアプローチする自発的な態度を養うことがあった。そこで史資料の提供側に身を置く現在、「学生も含めた地域住民が地域の〈知の資源〉にアプローチする仕掛け」をどうすれば実現できるかということに関心を向けている。そこで修士論文以降その可能性をさぐるため、高校生や大学生と〈知の資源〉とを繋ぐ仕掛けの1つとして、学習プリントを軸とした教育メソッドが確立できないかを模索してきた。

#### 1) 大学生を学習プリント作成の支援者として位置づける

大学生は地域の未来における人的資源である。彼らを学習プリント作成の支援者として位置付けることができれば、地域に眠る〈知の資源〉に持続的に生命を吹き込む善循環を生むことができる。また、現場の教師の作業負担量を軽減することにも資する。さらには、大学生が自らの眼差しで地域素材を収集して独自の情報を組み立てていくという主体的な学びのスタイルへ、ささやかな手がかりを提供できるのではないかと考えている。

#### 2) 「地域素材利活用プリント」を活用したワークショップの実施

発表者は、A3用紙1枚で完結するシンプルな構造の学習プリントを目下考案中である。限られた時間や空間の中でプリントを作成することを通して、自分を出発点として情報の広げ方やまとめ方について学ぶことができるものを目指している。そこで先頃、大学生を対象に、ありふれた日常の風景を多義的に読み解きながら、独自性の高いメッセージに収斂させていく学習プリントを試作するワークショップを実施した。しかしながら大学生はなお、「一義的な正解」を導こうとするあまり、たとえば借り物の観念論を披瀝したり、根拠のない予想に基づいて論じる傾向があることが浮き彫りになった。

#### 3) 〈知の資源〉の主体的な編集能力の涵養に向けて

上の問題を改善するために、発表者はいくつかの策を想定している。それは、完成イメージのフォーマットの明確化、適切なキーワードの付与、集団思考を促すトレーニングの挿入などの改善策である。この発表会においては、これらの策の妥当性や有効性などについて、参加者のみなさんからの知恵をお借りしながら活発な議論ができればと考えている。

※終了後、第二部として自由なトークを展開できる場（山口国際文化学 SALON）を準備しております。こちら皆様積極的なご参加をお願いいたします。